

～初級から楽しく描こう～

第11期 楽しい水彩・パステル

4月10日に開講した第11期「楽しい水彩・パステル」学科は、受講生 36 名(男性 15 名、女性 21 名)でスタートしました。日本美術家連盟会員 土方吉久先生を講師に、茨木市福祉文化会館で活動しています。

【5月の活動報告】

5月1日(月) 鉛筆デッサン(2)鉛筆で描く(タッチ)

○毎回、朝の 15 分間は各受講生が自由に鉛筆でデッサンする時間です。モチーフは静物、人物、風景など様々です。先生はアドバイスをしながら各座席を回ります。

午前中は土方先生の講義で、テキストに基づき鉛筆でデッサンする際の光の方向と影のとらえ方について具体的な解説がありました。受講生からは、「鉛筆だけで描く光と影に 5 段階あることがわかりました。また、補助線や輪郭線の大切さを改めて学習出来ました」などの声がありました。

○午後は各自が持参した静物、草花、など描きたいものを自由に描く時間ですが、先生が各テーブルを回りながら実際にその生徒の使っている画材を用いて目の前でお手本を描いたり手直しをしたりしていただきます。先生の手にかかるとマジックのように変わっていくのが不思議です。



5月15日(月) 鉛筆デッサン(3)鉛筆で描くスケッチ

○午前中の講義は、デッサンの目的により、鉛筆の種類を使い分けることや、自然のあらゆるものは、「立方体、球体、円柱体、円錐体」の 4 つの基本形体か、またはこの形体の複合体で出来ていること、また鉛筆デッサンではタッチ(見えない線)を用いて面の方向や形態を表現することを学びました。

受講生からは「何事も基礎が大切なので、地道に鉛筆デッサンに励みたい」という声がありました。

○午後の時間は、鉛筆デッサンをする受講生や水彩絵具、パステルを用いて描く受講生など、各自の経験・習得度や好みに合わせて自由に楽しく描く時間です。もちろん、先生のお手本や手直しが、即、勉強につながります。





5月29日(月) 水彩技法(1) 水彩の基本技法

○今日からいよいよ水彩技法に入りました。午前中の講義では、基本技法として「ウェットオンウェット(滲み)」、「ウェットインウェット(ぼかし)」、「ウェットインドライ(重ね塗り)」、「ドライブラッシュ(乾いた筆に乾いた絵の具をつけて描く)」などの技法と対象物の見方～描く位置からだけ対象物を見るのではなく、視点を変えて全体像をつかむこと～を学びました。



○午後の時間は、実際に絵具を使って描くことが始まり、「りんご」、「桃」などをモチーフとして、滲みやぼかしの技法などを一から学ぶことが出来ました。もちろん経験者は、自由に各自のモチーフを使った作品を描いており、先生から直接アドバイスを受け、実際に目の前で手を入れていただくのは、大変勉強になります。



なお、6月19日(月)の校外学習は、山王美術館(JR環状線京橋駅、徒歩約5分)で、「藤田嗣治展」を鑑賞する予定です。

(第2班:広報担当)